

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年9月27日(火)

NO.36



## 子ども百態

残り2週間ほどで前期が終わります。学校では、学習のまとめ等で子どもたちも日々頑張っています。そんな中での子どもたちとの何気ないふれあいを通じて感じたことを、徒然なるままにお伝えします。

与えよ  
さらば与えられん!



昼休み、できるだけ運動場に出て子どもたちの様子を見るようにしています。学習中の様子も見せてもらっていますが、担任していた当時から、子どもたちの本当の姿が見られるのは休み時間だと思っていたからです。

友だちとのやり取りの様子、遊びに集中している子どもの姿等を観察していると、「へえ、あの我がままだと思っていたAさんが、友だちにあんなに優しくできるんだ。」「Bさんは、学習中は目立たないけど、休み時間の姿ってあんなに元気なんだ。」「Cさんは、なんか最近友だちとの接し方が、柔らかくなった気がするな。」等々、新たな発見でウキウキしながら観察しております。



そんな中、ある日、低学年のDさんが一輪車に乗ってふらふらと私のところへやって来て質問してきました。「校長先生って、朝から元気ですね。どうしてですか?」と。私は、その質問に「はっ」としました。私が子どもたちを見てウキウキしたりハラハラしたりしていたのと同じように、子どもたちも私たち大人の姿を見て、一喜一憂しているんだ。ちよっと大げさですが、**私たち大人が元気であれば、学校が元気になる、暗いと暗くなるんだと、至極当たり前のこと**にあらためて気づかされました。元気な学校にしたかったら、元気ば出さやんちゅうことです。

魚心あれば水心

複数の小学校が集まった集会の場でのごことです。たまたま私の目の前に、E小学校の低学年の子どもが座りまわっているの、その子だけ上靴を履いたまま。引率されている方に、「どうして一人だけ上靴を履いているん



ですか?」と尋ねると、「この子は、担任のF先生の言うことしか聞かないんです。今日は、事情があってF先生は来られていないんです。」とのこと。なるほど、そういう子どもさんなんだと思いがらふと上靴のかかと部分を見ると、可愛い猫のイラストが描かれていました。かかと部分を指さしながら「わあ、この猫可愛いね!あなたも描いた?」と話しかけると、その子は、「瞬間なんだこのおじさんは、というような顔をしながらも、「ちがうよ。お母さんが描いたんだよ!」と、指さした方の上靴を脱いで自慢気に見せてくれました。「これ、手描きやん!すごい!そっちもね?」と、まだ履いたままの方の上靴を指さすと、「そうだよ!こつちもお母さんが描いたんだよ!」と、脱いで見せてくれました。



しばらく見せてもらって、「この上靴、ここに置いとこうか。」と、その子どもの座っている側にそつと揃えて置くと、その子はウンとうなずき、何事もなかったかのように集会開会行事に突入。

自主独立

前日の夜、雨が降った次の日の朝の出来事。男児が数名集まったところへ、一人の子どもが「サッカーして遊ぼう!」と呼びかけると、一人の子が、「だめやん。ぬるぬるしよるけん。」と返しました。要するに、運動場がぬかるんだ所があって、今遊んだら跡がついてしまうから、今日はサッカーはできないよということだったのです。



私は、それを聞いてすぐ、その子どもたちを呼んで言いました。「校長先生が望んでいた子どもの姿は、まさしくそういう姿たい!」と。数か月前のこと、明らかにぬかるんだ運動場を前に、「校長先生、運動場で遊んでいいですか?」と聞いてきたので、「跡がつかないってところでは、遊んでいいんじゃない。」と言ったところ、「遊んでいいんだって!」と言って、遊び始め、運動場には足跡だらけ。結局、トンボで運動場整備をすることに。それから数か月後の今朝、自分たちで状況を見て遊べないと判断することができたのです。ということでの今回の声掛けとなりました。この出来事は、とるに足らないたわいもない出来事ですが、「**自分で考える**」ことの大切さを示す貴重な出来事だと感じております。